



令和2年7月16日
消防局予防課
消防局救急課

令和2年上半期火災・救急概況（速報）

～令和2年1月1日から令和2年6月30日まで～

① 住宅火災の件数が増加！建物火災における住宅火災の割合が過去10年で最高火災による死者(放火自殺を除く)の全員が住宅火災によるもの

- ・ 火災件数は、前年よりも9件減少しましたが、住宅火災は16件増加しました。
- ・ **建物火災全体における住宅火災の割合は72.4%**となりました。

② 近年増加傾向にあった救急出場件数、搬送人員ともに、前年と比べ減少！

- ・ 令和2年上半期の救急出場件数は93,580件で、**前年同期と比べて8,558件(△8.4%)の減少、搬送人員は、78,717人で前年同期と比べて9,045人(△10.3%)減少**しました。
- ・ 4月の救急出場件数が最も減少(13,726件、前年同期比2,714件、△16.5%減)し、その内訳をみると、急病が1,363件(△12.2%)、一般負傷が637件(△21.3%)、交通事故が320件(△39.0%)それぞれ減少しました。

1 火災の概況（詳細は、別添資料1参照） ※過去10年間の平均は平成23年から令和2年までとしています。

(1) 火災件数

- ・ **令和2年上半期の火災件数は363件となり、前年同期と比べて、9件(△2.4%)減少**しました。【図1】

※火災件数は、過去10年間の平均と比べて82件(△18.4%)の減少となっています。

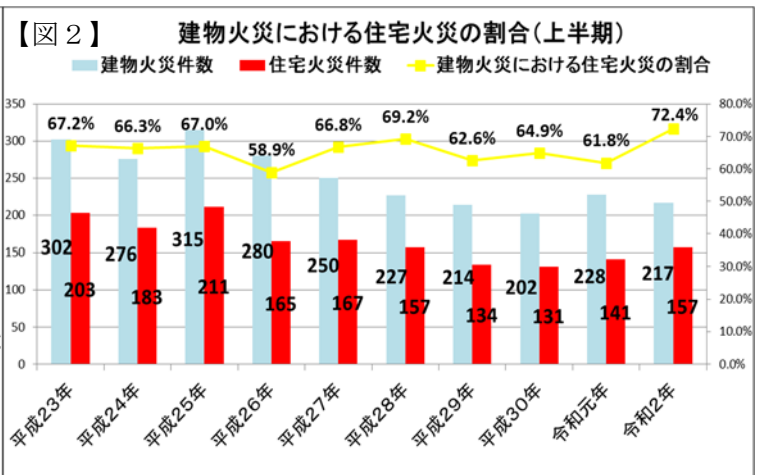
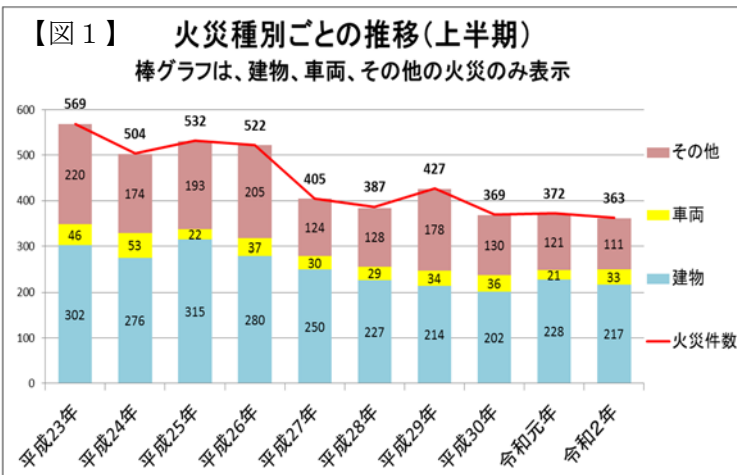
- ・ **住宅火災の火災件数は157件となり、前年同期と比べて16件(11.3%)増加**しました。【図2】

※住宅火災の火災件数は、過去10年間の平均と比べて8件(△4.8%)の減少となっています。

- ・ **建物火災(飲食店、店舗等の火災も含まれます。)全体における住宅火災の割合は72.4%**となり、前年同期と比べて10.6%増加し、過去10年間で最高となりました。【図2】

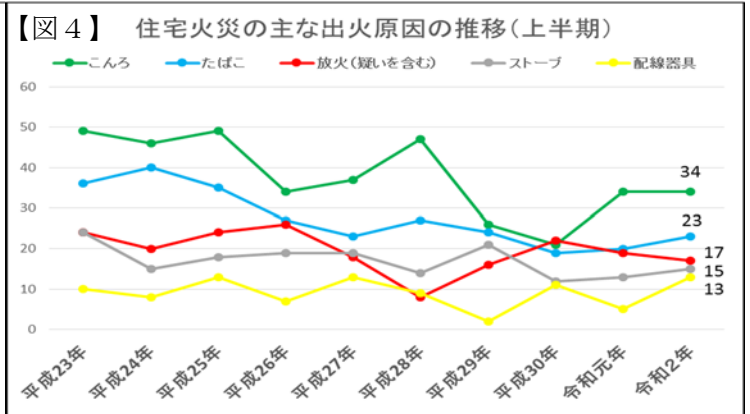
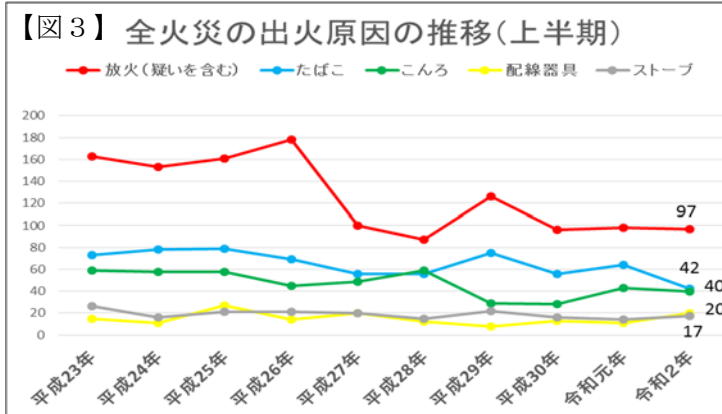
(2) 火災種別

- ・ 火災種別の内訳は、「建物火災」217件(59.8%)、「林野火災」0件(0.0%)「車両火災」33件(9.1%)、「船舶火災」2件(0.6%)、「その他の火災」(屋外で発生したごみ、立木、雑草などの火災)111件(30.6%)となりました。【図1】
- ・ 前年同期と比べて「車両火災」12件(57.1%)、「船舶火災」1件(100.0%)の増加、「建物火災」11件(△4.8%)、「林野火災」1件(△100.0%)、「その他の火災」10件(△8.3%)の減少となりました。



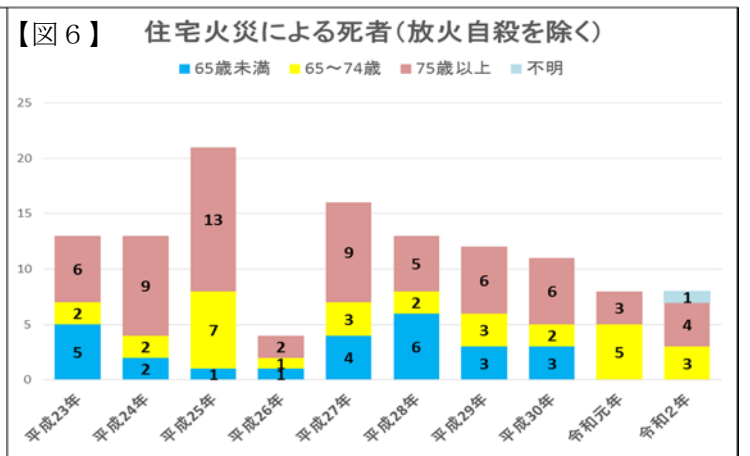
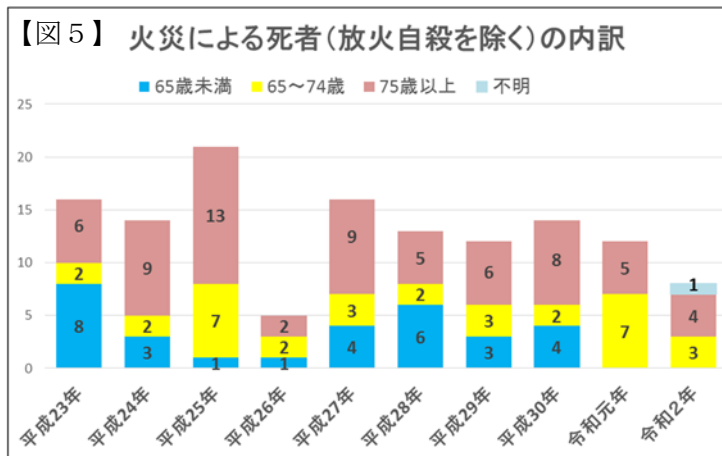
(3) 主な出火原因

- ・ **出火原因の上位**は、「放火(疑いを含む)」97件(26.7%)、「たばこ」42件(11.6%)、「こんろ」40件(11.0%)、「配線器具」20件(5.5%)、「ストーブ」17件(4.7%)の順となりました。【図3】
前年同期と比べて「配線器具」9件(81.8%)、「ストーブ」3件(21.4%)の増加、「放火(疑いを含む)」1件(△1.0%)、「たばこ」22件(△34.4%)、「こんろ」3件(△7.0%)の減少となりました。
- ・ **住宅火災の出火原因**は、「こんろ」34件(21.7%)が最多となり、次いで「たばこ」23件(14.6%)、「放火(疑いを含む)」17件(10.8%)、「ストーブ」15件(9.6%)、「配線器具」13件(8.3%)の順となりました。【図4】
前年同期と比べて「たばこ」3件(15.0%)、「ストーブ」2件(15.4%)、「配線器具」8件(160.0%)の増加、「放火(疑いを含む)」2件(△10.5%)の減少、「こんろ」は前年同期と同数となりました。
- ・ たばこ火による出火は、火種の残った吸殻を捨ててはいけないところに捨てたため出火するなど、不適当なところに捨て置く場合が前年同期と比べて24件(△44.4%)減少しました。



(4) 火災による死者・負傷者

- ・ 火災による死者(放火自殺を除く)は8人で、前年同期より4人(△33.3%)減少しました。
- ・ 火災による死者(放火自殺を除く)は、**年齢が判明している7人全員が65歳以上の高齢者で、そのうち75歳以上の方は4人でした。**【図5】
- ・ 火災による死者(放火自殺を除く)は、**全員が住宅火災によるものでした。**【図6】
- ・ 火災による負傷者は60人となり、前年同期より5人(△7.7%)減少しました。



住宅火災の死者のうち、**7人(87.5%)は住宅用火災警報器が未設置の世帯で発生しました。**

死者の多くは、火災の発見が遅れたことにより逃げ遅れたものです。火災を早く知るためには住宅用火災警報器の設置が有効です。未設置の方は、必ず設置していただくとともに、設置済みの方は、点検等の実施をお願い致します。また、古くなった住宅用火災警報器は、電池切れや電子部品の寿命で火災を感知しなくなることがありますので、**10年を目安に住宅用火災警報器の交換**をお願い致します。



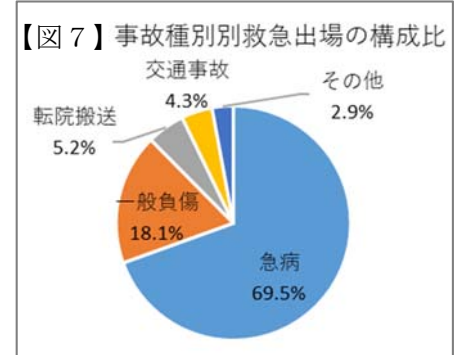
2 救急の概況（詳細は、別添資料2参照）

(1) 救急出場件数及び搬送人員

- 令和2年上半期の救急出場件数は93,580件で、前年同期と比べて8,558件（△8.4%）減少しました。
- 搬送人員も78,717人で、前年同期と比べて9,045人（△10.3%）減少しました。
- 1日あたりの平均救急出場件数は514件となり、前年同期と比べて50件減少しました。

(2) 事故種別別救急出場件数

- 全救急出場件数のうち、急病が69.5%、一般負傷が18.1%を占めました。【図7】
- 前年同期と比べて、急病が65,023件で5,623件（△8.0%）、一般負傷が16,927件で858件（△4.8%）、転院搬送が4,892件で760件（△13.4%）、交通事故は3,991件で884件（△18.1%）それぞれ減少しました。

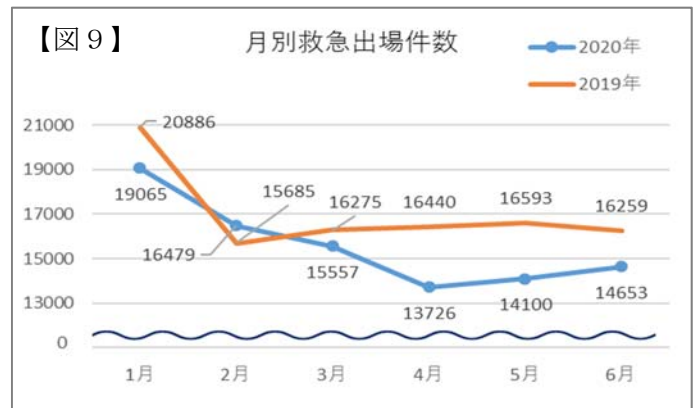
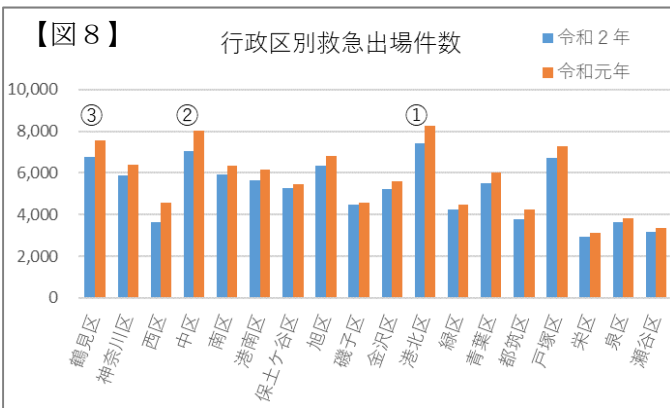


(3) 発生行政区別救急出場件数

- 救急出場件数が多い行政区は、港北区(7,441件)、中区(7,033件)、鶴見区(6,751件)の順となりました。【図8】
- 前年同期と比べて全ての行政区で減少し、中区で988件（△12.3%）、西区で946件（△20.7%）、港北区で834件（△10.1%）それぞれ減少しました。

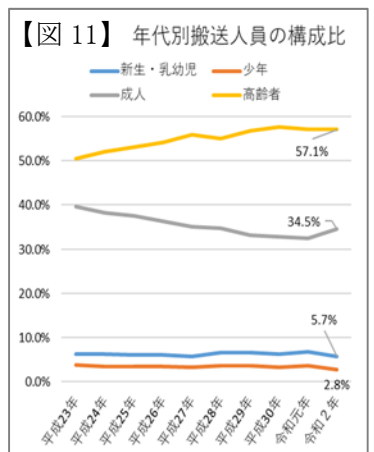
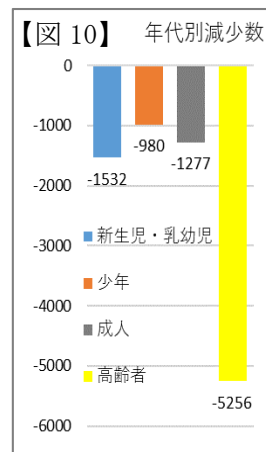
(4) 月別救急出場件数

- 月別の救急出場件数は、2月以外の月で前年同月より減少しました。【図9】
- 特に4月は13,726件で、前年同期と比べて2,714件（△16.5%）と最も減少し、その内訳をみると、急病が1,363件（△12.2%）、一般負傷が637件（△21.3%）、交通事故が320件（△39.0%）それぞれ減少しました。また、4月の1日あたりの平均救急出場件数は458件と前年同期の548件より90件減少しました。



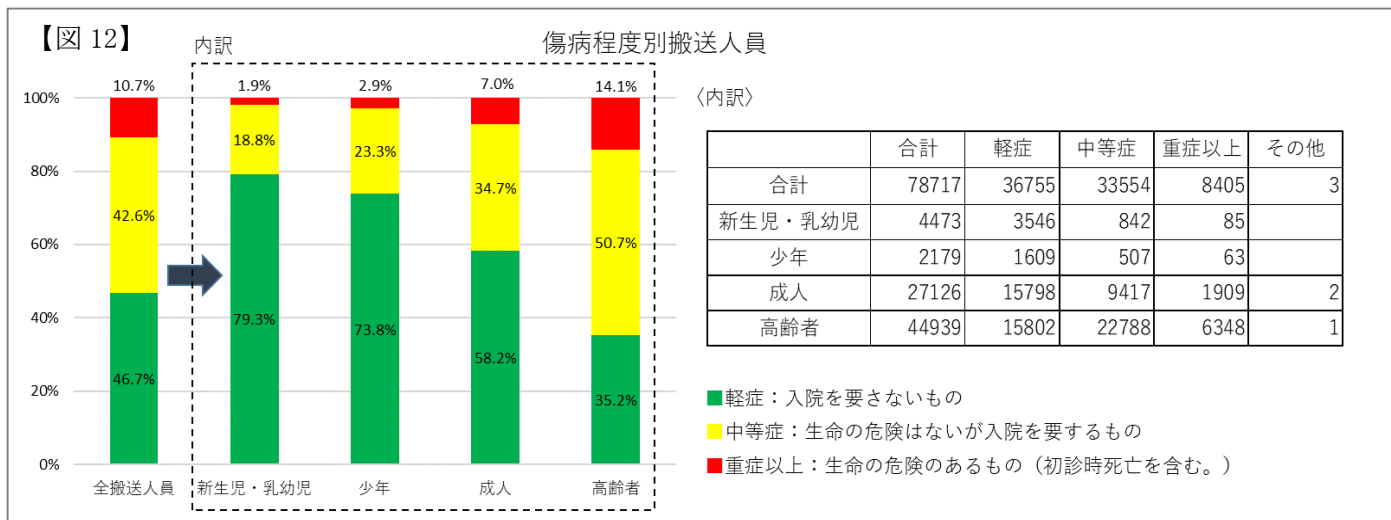
(5) 年代別搬送人員

- 高齢者（65歳以上）の搬送が大きく減少しました。【図10】
- 前年同期と比べて、高齢者（65歳以上）が5,256人（△10.5%）、新生児・乳幼児（7歳未満）が1,532人（△25.5%）、成人（18歳以上65歳未満）が1,277人（△4.5%）、少年（7歳以上18歳未満）が980人（△31.0%）それぞれ減少しました。
- 構成比でみると、全搬送人員のうち、高齢者が57.1%を占めました。【図11】



(6) 傷病程度別搬送人員

- 前年同期と比べて軽症が4,528人(△11.0%)、中等症が3,775人(△10.1%)、重症以上が742人(△8.1%)減少しました。
- 新生児・乳幼児、少年、成人では、約6割以上が軽症であるのに対して、高齢者では、入院が必要となる中等症、重症以上の占める割合が約6割以上となりました。【図12】



これから本格的な夏が始まります。

昨夏の熱中症の救急搬送は、梅雨が明けた7月下旬の暑さ指数(WBGT)が28℃以上の厳重警戒の日に増加しました。しかし、8月下旬以降は体が暑さに慣れたと考えられ、暑さ指数が28℃以上を記録しても熱中症で搬送される方は少なくなる傾向となりました。

今年は、新型コロナウイルス感染症への対応により、マスクの着用など「新しい生活様式」を取り入れており、今夏は例年以上に熱中症対策が必要になります。

マスク着用時は、負荷のかかる作業や運動を避け、周囲の人との距離を十分にとった上で適宜マスクをはずして休憩し、こまめに水分・塩分補給するなど熱中症にお気をつけください!



※熱中症搬送状況は、熱中症疑いも含まれます。
 ※令和2年搬送人員は速報値のため、後日変更する可能性があります。
 ※暑さ指数(WBGT)は、環境省のデータを使用しています。

お問合せ先

消防局予防課長 和知 治 Tel 045-334-6601 (火災に関すること)
 消防局救急課長 安平 博 Tel 045-334-6771 (救急に関すること)

火災概況〈速報〉

1 火災種別

単位：件

区分 \ 年別	令和2年 (A)	令和元年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成23年～令和2年) (C)	増△減 (A) - (C)
火災件数	363	372	△9	445	△82
建物火災	217	228	△11	251	△34
住宅火災	157	141	16	165	△8
林野火災	-	1	△1	-	-
車両火災	33	21	12	34	△1
船舶火災	2	1	1	1	1
航空機火災	-	-	-	-	-
その他の火災	111	121	△10	158	△47

2 主な出火原因

単位：件

区分 \ 年別	令和2年 (A)	令和元年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成23年～令和2年) (C)	増△減 (A) - (C)
主な原因					
放火(疑いを含む)	97	98	△1	126	△29
たばこ	42	64	△22	65	△23
こんろ	40	43	△3	47	△7
配線器具	20	11	9	15	5
ストーブ	17	14	3	19	△2

3 損害

区分 \ 年別	令和2年 (A)	令和元年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成23年～令和2年) (C)	増△減 (A) - (C)	
損害	焼損床面積(m ²)					
	建物火災	3,338	3,248	90	3,983	△645
	住宅火災	2,517	1,578	939	2,572	△55
	死者(人)	10	16	△6	15	△5
	放火自殺者	2	4	△2	2	-
負傷者(人)	60	65	△5	71	△11	

4 行政区別火災発生状況

単位：件

区分 \ 年別	令和2年 (A)	令和元年 (B)	前年比 (A) - (B)	過去10年間の平均 (平成23年～令和2年) (C)	増△減 (A) - (C)	
行政区	鶴見区	30	50	△20	42	△12
	神奈川区	21	26	△5	28	△7
	西区	18	10	8	18	-
	中区	29	31	△2	39	△10
	南区	23	25	△2	29	△6
	港南区	25	26	△1	23	2
	保土ヶ谷区	13	17	△4	21	△8
	旭区	23	21	2	29	△6
	磯子区	11	12	△1	16	△5
	金沢区	19	14	5	20	△1
	港北区	33	41	△8	39	△6
	緑区	20	14	6	21	△1
	青葉区	15	14	1	22	△7
	都筑区	16	19	△3	22	△6
	戸塚区	34	22	12	30	4
	栄区	6	7	△1	10	△4
	泉区	14	12	2	19	△5
	瀬谷区	13	11	2	20	△7
合計	363	372	△9	445	△82	

備考 住宅火災件数は建物火災件数の内数。また、放火自殺者数は死者数の内数

過去10年間の平均の数値は小数点以下を四捨五入してあるので、合計と一致しない場合があります。

令和2年上半期の救急状況〈速報〉

1 救急出場件数

区分	令和2年	令和元年	増△減	増減率
救急出場件数	93,580	102,138	△8,558	△8.4%
1日あたりの件数	514	564	△50	

2 事故種別別救急出場件数

区分	令和2年		令和元年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	93,580	100.0%	102,138	100.0%	△8,558	△8.4%	
事故種別	急病	65,023	69.5%	70,646	69.2%	△5,623	△8.0%
	一般負傷	16,927	18.1%	17,785	17.4%	△858	△4.8%
	転院搬送	4,892	5.2%	5,652	5.5%	△760	△13.4%
	交通事故	3,991	4.3%	4,875	4.8%	△884	△18.1%
	その他	2,747	2.9%	3,180	3.1%	△433	△13.6%

3 傷病程度別搬送人員

区分	令和2年		令和元年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	78,717	100.0%	87,762	100.0%	△9,045	△10.3%	
程度	軽症	36,755	46.7%	41,283	47.0%	△4,528	△11.0%
	中等症	33,554	42.6%	37,329	42.5%	△3,775	△10.1%
	重症以上	8,405	10.7%	9,147	10.4%	△742	△8.1%
	その他	3	0.0%	3	0.0%	0	0.0%

4 年代別搬送人員

区分	令和2年		令和元年		前年比較		
	搬送人員	構成比	搬送人員	構成比	増△減	増減率	
合計	78,717	100.0%	87,762	100.0%	△9,045	△10.3%	
年代	高齢者	44,939	57.1%	50,195	57.2%	△5,256	△10.5%
	成人	27,126	34.5%	28,403	32.4%	△1,277	△4.5%
	少年	2,179	2.8%	3,159	3.6%	△980	△31.0%
	新生児・乳幼児	4,473	5.7%	6,005	6.8%	△1,532	△25.5%

5 発生行政区別救急出場件数

区分	令和2年		令和元年		前年比較		
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率	
合計	93,580	100.0%	102,138	100.0%	△8,558	△8.4%	
行政区	鶴見	6,751	7.2%	7,577	7.4%	△826	△10.9%
	神奈川	5,891	6.3%	6,400	6.3%	△509	△8.0%
	西	3,630	3.9%	4,576	4.5%	△946	△20.7%
	中	7,033	7.5%	8,021	7.9%	△988	△12.3%
	南	5,907	6.3%	6,349	6.2%	△442	△7.0%
	港南	5,650	6.0%	6,164	6.0%	△514	△8.3%
	保土ヶ谷	5,248	5.6%	5,451	5.3%	△203	△3.7%
	旭	6,330	6.8%	6,791	6.6%	△461	△6.8%
	磯子	4,458	4.8%	4,584	4.5%	△126	△2.7%
	金沢	5,208	5.6%	5,613	5.5%	△405	△7.2%
	港北	7,441	8.0%	8,275	8.1%	△834	△10.1%
	緑	4,235	4.5%	4,460	4.4%	△225	△5.0%
	青葉	5,503	5.9%	6,037	5.9%	△534	△8.8%
	都筑	3,784	4.0%	4,223	4.1%	△439	△10.4%
	戸塚	6,742	7.2%	7,260	7.1%	△518	△7.1%
	栄	2,940	3.1%	3,102	3.0%	△162	△5.2%
	泉	3,654	3.9%	3,841	3.8%	△187	△4.9%
	瀬谷	3,147	3.4%	3,376	3.3%	△229	△6.8%
	市外	28	0.0%	38	0.0%	△10	△26.3%

6 月別救急出場件数

区分	令和2年		令和元年		前年比較	
	出場件数	構成比	出場件数	構成比	増△減	増減率
合計	93,580	100.0%	102,138	100.0%	△8,558	△8.4%
1月	19,065	20.4%	20,886	20.4%	△1,821	△8.7%
2月	16,479	17.6%	15,685	15.4%	794	5.1%
3月	15,557	16.6%	16,275	15.9%	△718	△4.4%
4月	13,726	14.7%	16,440	16.1%	△2,714	△16.5%
5月	14,100	15.1%	16,593	16.2%	△2,493	△15.0%
6月	14,653	15.7%	16,259	15.9%	△1,606	△9.9%

※すべての表の構成比は少数第2位を四捨五入しているため合計が100にならない場合があります。